

# ピアノ再発見! 白と黒の聖なる響き

ドビュッシーがピアノ二重奏のために作曲した「白と黒で」という小品がある。作曲者自身が「ピアノの響きから、その色彩と感覚を引き出したもの」と語るように、表題の白と黒はピアノの鍵盤を指しているのだろう。ピアノの繊細な指先から生まれる音色の豊かさは、あらゆる楽器を凌駕し、オーケストラに匹敵するともいわれている。300年の歴史をもつピアノという楽器の魅力に迫ってみよう。



～感性を磨く、感動を見つける～  
**Enjoy!**  
*Arts & Entertainment*  
ほんの少しの好奇心と最初の一步を踏み出す勇気—  
扉の向こうにあなたの知らない素敵な世界が広がります

### Contents

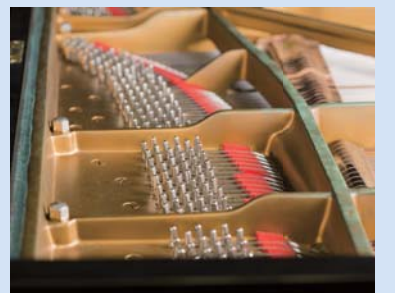
- Enjoy! Arts & Entertainment
- 01 **ピアノ再発見!**  
白と黒の聖なる響き
- 05 **WALK ON** 伝説と歴史の舞台を歩く  
七曲がり 彦根市
- 06 **Recommended Files** 今月のオススメ  
パティスリー T-マファッソン 守山市
- KEIBUN**友の会員特典のご案内
- 07 **イベント**/bjリーグ/シネマ/アート/スポーツ/  
ゴルフ/旅行/レジャー/健康/カルチャー/グルメ
- 25 **プレゼント**/Reader's Letters

●表紙【Amazing! Museum～感動空間への招待②】  
プラド美術館(スペイン)

歴代スペイン王家のコレクションを展示するマドリードの美術館。ペラスケス、ゴヤなどのスペイン絵画に加え、フランドル、イタリアの外国絵画などの美術品約8000点を所蔵。マドリード観光の人気スポットで夕方からは入場無料。



演奏会に愛用のピアノを持ち込むこだわり派のピアニストもいるが、ほとんどはホール等が所有するピアノで演奏するため、鍵盤の感触が違っていたり、楽器そのものの音の響きが微妙に異なる。そうなるにピアノ調律師の存在が大きい。演奏者からの要求に応えながら、音色や音の伸びを整え、全体のバランスを考えながらひとつの楽器として仕上げる。演奏者と同じ次元で音作りに関わる、不可欠なパートナーである。



PIANO à la carte

ピアノの名門ブランドで聴く!



しがぎんホールで使用されるピアノ(1~2ページ写真)は、ピアノの名門ブランドのひとつであるスタインウェイ・アンド・サンズ製。ウラディミール・ホロヴィッツやグレン・グールドなど有名ピアニストに愛用されたメーカー

である。これと双璧をなすのがベーゼンドルファー。好きなピアニストがどのブランドにこだわっているのか、そんなことを考えながら聴いてみるのも面白い!

この手がピアノを極めた!?

ショパンとリストがどんな手の持ち主だったのか、ファンなら気になる。ワルシャワのショパン記念館にはショパンの左手実寸大の石膏模型が展示されている(写真右上)。その手は女性の手のように華奢で指が長い。一方、リストの石膏模型(同右下)も残されていて、その手はとて大きかったようだ。親指と薬指が長く、10度の音程まで余裕で届いたとか。超絶技巧はこの指から生まれたのだ!



写真提供/野村祐子氏

ピアニストにとって“難曲”とは?

一般的に難易度が高いといわれるのは、リストの「ラ・カンパネラ」とずばり「超絶技巧練習曲」。ラフマニノフの「ピアノ・ソナタ第2番」やKEIBUN30周年感謝祭の公演で辻井伸行が挑んだ「ピアノ協奏曲第3番」も高度なテクニックが要求される。4月の久米航の公演で取りあげるラヴェルの「夜のガスパール」は、ピアニスト泣かせともいわれる難曲だ。その目と耳でぜひ確認してほしい。



同世代ながら「ピアノイズム」の対極で活躍したショパン(写真左)とリスト(同右)

て熱狂的な女性ファンをもつアイドル的な存在だった。二十歳の時、パガニーニのヴァイオリン演奏に感動し、演奏家としてテクニックと表現力を追い求め、ピアノの魔術師とも呼ばれた。作曲家としても非凡



キータッチに強弱をつけることで、ピアノからフォルティッシモまで、繊細な音を生み出すことができる。

Step 1  
豊かな表現力をもつ  
“楽器の王様”  
ピアノのメカニズム

漆黒のボディと優美な曲線を描くフォルム、その中に組み込まれた精緻なメカニズム、そして黒鍵と白鍵が織りなす鍵盤の幾何学的配列——ピアノという楽器には、他の楽器と一線を画する強烈な個性がある。スポットライトを浴び、ステージの中央で構えるその姿は、まるで巨大なオブジェのようだ。

鍵盤の数は88が標準(例外もある)。18世紀初頭、イタリアのクリストフォリによって発明されたピアノの鍵盤は54鍵だった。時代とともに作曲家の表現力は豊かになり、その求めによってピアノの音域も拡大していった。19世紀末には楽器としての機能がほぼ完成し、現在の88鍵

になったという。これは7オクターブ余の音域で、人間の耳が音程として聴き分けることができるぎりぎりの範囲。オーケストラのあらゆる楽器の音域をカバーする。つまり、ピアノ一台でオーケストラのような表現力をもっているわけだ。

Step 2  
まずはショパンとリスト  
名曲を生み出した  
偉大な作曲家はみんな  
ピアニストだった!?

綺羅星のような名曲を生み出した、バッハ、モーツァルト、ベートーヴェンなどの偉大な作曲家が優れた鍵盤楽器の奏者でもあったことを思うと、その指先から生まれる音楽に無限の可能性を感じずにはられない。特に「ピアノイズム」を極めたショパンとリストが一歳違いの同世代であることは興味深い。

ショパンはピアノの表現様式において新しい地平を切り拓いた存在だ。甘美な旋律で知られるノクターンや練習曲「別れの曲」など、ロマンティックな作風から「ピアノの詩人」と呼ばれた。祖国への愛国心も強く、ポーランド舞曲をもとにしたポロネーズやマズルカなど民族性の強い楽曲もファンに根強く愛されている。一方、リストは革新的なピアニストとし

で、超絶技巧の名曲「ラ・カンパネラ」は、パガニーニのヴァイオリン協奏曲をもとに編曲した人気のピアノ作品である。彼らの代表曲はピアノ音楽のほんの一部に過ぎないが、「ピアノイズム」の対極にいる二人が後世のピアニストたちに愛される理由がよくわかるだろう。

Step 3  
多彩な演奏形態を満喫  
ソロでたっぷり堪能!!  
室内楽やアンサンブル、  
協奏曲も楽しもう!

多くの作曲家は、交響曲などオーケストラの曲をピアノで構想し、作曲している。演奏者にとっても複雑な音楽を一人で奏でることができる楽器は他にないだ

ろう。魅力的な独奏のピアノ曲が圧倒的に多いのもうなづける。

そんな万能楽器のピアノに管楽器や弦楽器などの他の楽器の音色を重ねると、表現の幅は一気に広がる。三重奏や四重奏、五重奏などの室内楽にはピアノが重要な役割を担う名曲が多く、さまざまな楽器編成によるアンサンブルが、小さなホールなどで気軽に楽しめる。

そして、オーケストラを伴奏にピアノが主役を務める協奏曲は実に贅沢なジャンルである。リストの華やかな演奏が満喫できるとともに、オーケストラとの共演が生み出す濃厚なサウンドの醍醐味も堪能できる。また、協奏曲には「カデンツァ」と呼ばれる独奏部分がある。オケの伴奏がストップして、ピアノが個人的な技巧を披露してくれる。ピアノファンにはたまらない聴きどころのひとつだ。

すばらしきピアノ音楽の世界へ  
きつともっと、  
ピアノが大好き!



Step 4  
コンサートへ行こう!  
感動の生音を体験!!  
あなたは「左寄り」派  
それとも「右寄り」派?

「左寄り」「右寄り」というとキナ臭い話に聞こえるが、これはコンサートでのピアノの聴き方について。

ピアノは、演奏者が鍵盤を押し下げ、その奥のハンマーが弦を叩いて出た振動が響板に伝わって音が増幅される。その音は、屋根と呼ばれる反響板によって、ステージ上のピアノの正面から見て右側の客席に届けられる。

バランスの良い音を期待するならば、ホールのセンターライン付近の座席がおすすめ。しかし、通になるとピアノに向かつて左寄り、右寄りの席にこだわる人が少なくない。

「左寄り」はピアニストの手元、鍵盤をたたく指先が見える。曲調によって動きが変わり、華麗な指さばきに魅了されることもしばしば。音を重視する方は、屋根からの反響効果が高く、豊かな音量の響きが楽しめる「右寄り」派が多い。そして何より演奏者の顔がよく見える。情感をこめた演奏は、表情からもその思いが伝わってくる。

これはしがぎんホールなどの小ホールであればより楽しめる!!

ピアノ再発見!白と黒の聖なる響き



1994年生まれ。ドイツ・フライブルク音楽大学ピアノ科在学中。第32回ピティナ・ピアノコンペティションJr.C級金賞、併せて読売新聞社賞・ソナーレ賞受賞。2009年京都青山音楽記念館(パロックザール)にて「久末航ファーストピアノリサイタル」を開く。第19回青山音楽賞新人賞、第9回宝塚ベガ学生ピアノコンクール高校生部門第1位・宝塚演奏家連盟賞、第64回全日本学生音楽コンクールピアノ部門高校の部大阪大会第3位、全国大会第2位。平成25年度平和堂財団芸術奨励賞音楽部門受賞。

ピアニスト  
**久末航**

*Close Up Artist*

「ずっと昔に造られた楽器なのに、古典から現代曲まであらゆる音楽に対応できる幅広い表現力がある。本当に可能性に満ちている楽器だと思えます」とピアノの魅力について語る大津市出身のピアニスト久末航さん。4月から始まるしがぎんホールシリーズで初の本格的なリサイタルを行う。

「ドイツのフライブルク音楽大学に在学中の久末さん。レッスンに勤しむ一方で、時にはピアノから離れて自由に旅行を楽しむなど、ヨーロッパの地で感性を磨いているという。」  
 「休息することも大切だ」という先生の考えもあり、時に音楽を離れて、別の何かに熱中すること(時間)も大切にしています。昔から、好きな曲を弾いていく中でテク

フライブルクで研鑽を積む  
 若き才能の本格的リサイタル!

ニックや解釈を身につけていくタイプなので(笑)」  
 今年成人式を迎えるという若さながら、確固たるスタイルをもつ表現者としての風格さえ漂う。今回のリサイタルではどんな演奏を聴かせるのかわかるのだろうか。自ら選曲したというプログラムは、バラエティーに富んだ作曲家の曲目が揃い、幅広い構成となっている。  
 「前半は情景豊かなフランスの作曲家、後半は力強さが魅力のロシアの作曲家の作品を主に取り上げ、同じピアノ音楽でも表現スタイルの違いを楽しんでいただきたいですね。お客さまの前で演奏するのは幸せな時間です。とてつもなくエネルギーが必要ですが、それくらい演奏者の気持ちが高ぶらないと感動は伝えられない。苦しさはありますが、一方でお客さまからたくさんエネルギーをいただきます。本番もそれぞれの曲の素晴らしさや魅力を皆さんと共有できることを楽しみにしています」

春爛漫!注目のピアノ・リサイタル

※チケットを取り扱っています。お申し込みはイベントリストをご参照ください。

平成26年度滋賀県文化奨励賞受賞の句のピアニスト!  
**北川恵美 ピアノ・リサイタル**

■2月15日(日)14:00開演 びわ湖ホール小ホール  
 ■曲目/ショスタコーヴィチ:ピアノ・ソナタ第1番、24の前奏曲 他

「shift change~新たな奏で…」若い感性で次世代を担う  
**菅井麻友子 ピアノソロコンサート**

■3月22日(日)19:00開演 栗東芸術文化会館さくら小ホール  
 ■曲目/スカルラッチィ:ソナタホ長調L.23、モーツァルト:デュポールのメヌエットによる9つの変奏曲 他

日本人初!チャイコフスキー国際コンクール優勝の偉才!!  
**上原彩子 ピアノ・リサイタル**

■3月26日(木)19:00開演 京都コンサートホール小ホール  
 ■曲目/モーツァルト:「ああ、お母さん聞いて」による12の変奏曲(キラキラ星変奏曲)、ピアノ・ソナタ第13番、ムソルグスキー:組曲「展覧会の絵」 他

ヨーロッパで高評価を得た、感受性に満ちあふれた演奏  
**BAF2015 井尻愛紗 ピアノ・リサイタル**

■3月28日(土)15:30開演 びわ湖ホール小ホール  
 ■曲目/ルウェリン:2つのプレリュード(世界初演)、プロコフィエフ:「ロミオとジュリエット」op.75 他

本場ヨーロッパで学ぶ、湖国期待のピアニストが登場!  
**久末航 ピアノ・リサイタル**

■4月4日(土)15:00開演 しがぎんホール  
 ■曲目/ハイドン:ピアノ・ソナタ第32番口短調、ショパン:バラード第3番、ラヴェル:「夜のガスパール」、スクリャーピン:ピアノ・ソナタ第5番 他

才色兼備の注目株!ピアニズムの新境地を拓く!!  
**アリス=紗良・オット ピアノ・リサイタル**

■5月23日(土)14:00開演 びわ湖ホール大ホール  
 ■曲目/ベートーヴェン:ピアノ・ソナタ第17番「テンペスト」、リスト:愛の夢 他